令和８年度 石岡市 全国学力・学習状況調査 結果について

石岡市教育委員会

【全国学力・学習状況調査の目的】

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。

【調査実施日】

令和８年４月 23 日（木）

【調査対象】

悉皆調査：小学校第６学年、中学第３学年

【調査事項及び手法】

〇教科に関する調査

国語、算数・数学、英語（中学校のみ）

〇質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査

※中学校英語、質問調査は、コンピューターを使用する試験方式（CBT）で実施

【調査結果の概要について】

各教科及び質問調査について、結果として成果があった問題〇と、課題となった問題●です。

1. 【国語】

小学校

○ 【構成メモ】の工夫を選択（1一：話すこと・聞くこと　思考・判断・表現）

文章や発表の計画段階において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を工夫することができています。

○ 【動画の一部】の工夫を選択（1二(1)：話すこと・聞くこと　思考・判断・表現）

音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする時に資料を活用し、説明を補足したり、伝えたいことを強調したりすることができます。動画の一部から、遊びを紹介するために自分たちの考えが伝わるよう、工夫した資料を選択することができています。

● 文脈に即した漢字の正確な表記（2三イ：言葉の特徴や使い方に関する事項　知識・技能）

同音異義語を含む漢字の書き取り（「不思議」の表記など）が課題となっています。個々の漢字を形式的に覚えるのではなく、短文や文脈の中で語彙の意味を理解しながら書く学習活動を取り入れることが必要です。また同音異義語の語句や漢字を調べ、意味を比べながら、文字の意味の理解や漢字を使うことのよさを実感することも大切です。

● 文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択（2一：書くこと　思考・判断・表現）

筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかについての問題に課題があります。相手に分かりやすく伝わるように、伝えたいことや知らせたいことを明確にする文章には、「考えと理由や事例」「原因と結果」「疑問と解決」など、つながりや配列を意識して文章全体の構成を考える学習が大切になります。

中学校

○ 気持ちがより伝わるように、工夫して表現（3二：書くこと　思考・判断・表現）

表現の効果を考えて描写することができています。比喩的な表現や反復などを使っている生徒よりは、行為や心情を表す語句などを使って具体的に想像して描いている生徒の方が多いです。

○ **単語の活用について理解（1三：言葉の特徴や使い方に関する事項　知識・技能）**

「ら抜き言葉」を識別することができています。「ら抜き言葉」以外にも、可能動詞、自動詞と他動詞の違いなど、日常の言語活動の中にある言葉を取り上げることで、言葉の特徴やきまりについて効果的です。

● **二つの例文を比較して、具体的な様子と擬態語の効果を記述（4四：読むこと　思考・判断・表現）**

擬態語である「きっぱり」がどのような様子を表しているのかを具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について本文中の言葉を使って書けない生徒が多いです。文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容について、どのように把握したり解釈したりしたかも確かめながら、考えを形成していくことが大切です。

● **文脈に即して正しく漢字を書き、漢字の組合せとして適切なものを選択**

（3一：言葉の特徴や使い方に関する事項　知識・技能）

文脈に即して語句を選んで文章の中で正しく使うことはできているが、正しい漢字を書き表す力に課題が見られます。各学年の語彙の指導事項の内容と関連付け、音訓を意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことが大切です。

2. 【算数・数学】

小学校（算数）

○ **数カードを用いた条件に合う数の構成（3(1)：数と計算　知識・技能）**

数字カード（1．5．9）を用いて条件を満たす最も大きい数を構成することがよくできています。数と計算領域における基礎的概念や位取りの仕組みが定着しています。

○ **二つの量の混み具合を求める式の意味について選択（2(3)：変化と関係　思考・判断・表現）**

単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断することができています。

● **整数と小数の減法の計算（3(2)：数と計算　知識・技能）**

位取り（小数点を揃える）の理解不足や、5 を「0.01 が 500 個分」と捉える相対的な数の見方・計算原理の理解に課題があります。小数の計算も、整数と同じ原理、手順でできることを理解したり、計算の結果の見積りや計算の確かめをしたりできるようにすることが重要です。

● **異分母の分数の大小比較と理由を記述（3(3)：数と計算　思考・判断・表現）**

7/3 より 7/4 の方が大きいと判断したり、判断した理由を数や言葉を用いて記述したりすることに課題があります。通分を用いたり、小数で表したり、分子が等しいことに着目したり、帯分数で表したりするなど、幾つかの方法を用いて分数の大小を比べることが大切です。

中学校（数学）

○ **正の数・負の数を用いた気温変化の計算（1：数と計算　知識・技能）**

具体的な場面における数量の変化を正負の数で表す問題ができています。数と式領域の基礎的な概念・計算能力が定着しています。

○ **累積度数の意味を理解し求めている（9(3)：データの活用　知識・技能）**

度数分布表における各階級の度数（1 人＋14 人＋75 人）を順に足し合わせることで、「睡眠時間が 7 時間未満の生徒が全体で何人いるか」という度数の積み上げ（累積）の概念を正しく捉えて計算することができています。

● **角の大きさを文字式で表す（8(1)：図形　思考・判断・表現）**

正答は「2a」でしたが、「1/2a」や「a」、「a^2」などの誤答が特に多く見られました。作図によってできた角が元の「2 倍」の大きさになるという数量関係を、文字を使って正しく式に表すことに課題があります。図形上の倍数関係や位置関係を言葉だけで理解するのではなく、「a の 2 倍だから 2a」のように、根拠をも

って文字式化する活動を反復して取り入れることが大切です。

● **関数関係を利用した問題解決方法の記述（7(2)：関数　思考・判断・表現）**

「グラフを利用する」や「比例の式を立てる」といった大まかな方針は記述できても、「y 座標が 1000 のときの x 座標を読む」や「y=1000 を代入して x の値を求める」といった具体的にどのような手順で解くのかという筋道を、明確に説明することに課題が見られます。表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、数学的な表現を用いて説明できる機会づくりが大切です。さらに表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていくことができます。

3. 【英語（4 技能：聞く・読む・書く・話す）】 ※中学校のみ

○ **目的に応じて、必要な情報を聞き取る（2：聞くこと　思考・判断・表現）**

ショッピングセンターでアナウンス音声を聞き、目的に応じで必要な情報を聞き取ることができています。話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して聞き取れています。

○ **短い物語の読解し、登場人物の気持ちの変化の把握し選択（9：読むこと　思考・判断・表現）**

一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれることなく、登場人物の行動や心情の変化、全体のあらすじ、書き手が述べていることの大まかな内容などを捉えることができています。さらに登場人物の行動や出来事と、その時の心情に着目して、物語の概要も捉えています。

● **自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る（3：聞くこと　思考・判断・表現）**

「自分のカード番号は 30 番である」という条件・状況を把握した上で、流れる音声から自分に必要な情報を聞き取ることに課題が見られます。全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、複数の情報から、自分にとって必要な情報とそうでない情報を区別して聞き取る必要があります。自分にとって必要な情報は何かをはっきりさせた上で英語の音声を聞くなど、コミュニケーションの場を設定することが大切です。

● **まとまりのある文章を書く（１３：書くことすこと　思考・判断・表現）**

留学生のトムと一緒にしたいことを 1 つ取り上げ、その理由を含めて 15 語以上 30 語以内の英語で記述する問題です。提案（やりたいこと）は書けていても理由まで書ききれなかったり、英語の表現や語彙が思い浮かばずに書き進められなかったりする傾向が見られます。事実や自分の考えを整理し、一貫性のあるまとまりのある文章を英語で構成する学習が大切です。

4. 【質問紙調査】

小学校

○ **国語の学習活動（質問 58・59）**

「国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていた」や「国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていた」など、国語の学習において、自分の考えを形成する活動が定着しています。

○ **主体的・対話的で深い学び（質問 39・42）**

「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」や「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」など、「主体的・対話的に学ぶこと」に関して肯定的で、互いの考えを尊重し合いながら協力して学ぶ態度が身に付いています。

● **家庭学習習慣の確立（質問 44）**

学校の授業時間以外（平日）の勉強時間が「30 分より少ない」「全くしない」と答えた児童の割合が高く、家庭での習慣化に課題があります。

● 自発的な情報・活字接触（質問 30）

新聞を読む習慣がない児童が多く、多様な情報や文字に親しむ機会の創出が必要です。

中学校

○ 向社会性（質問 11・14・33）

「人が困っているときは、進んで助けています」「人の役に立つ人間になりたいと思います」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思います」に関して肯定的です。単に良好な友人関係を保つだけでなく、授業や集団活動の場において自分とは異なる意見や考え方を尊重し合い、協力して目標や課題に向かう協働的に学ぶことができています。

○ 学びの自己調整（質問 22・43）

「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできています」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができています」に関して肯定的です。未知の課題や疑問に直面した際に受け身にならず、自力での解決方法や調べ方を模索しています。さらに学習を振り返り、次の学習ステップへ繋げるという自己調整学習のサイクルが機能しています。

● 平日読書習慣の著しい不足（質問 27）

普段 1 日 30 分以上読書をする生徒の割合が低く、大きな課題となっています。

● 朝食の習慣的摂取（質問 2）

「毎日朝食を食べている」と回答した生徒の割合が低く、基本的生活習慣の振り返りが必要です。

まとめ

令和 8 年度石岡市の調査結果では、小・中学校ともに高い自己肯定感や豊かな協働性、学校生活への高い満足感といった主体的・心理的側面に大きな強みが見られました。教科面でも、基礎的な計算や英語音声の聞き取り、話すこと聞くことに関して、良好な成果を示しています。

全教科に共通する明確な課題は「知識・技能の定着」「読み取る力」や「条件や根拠に基づき、自らの考えとその理由を論理的に表現・記述・発話する力」の育成です。例えば計算や擬態語の意味、算数・国語の記述問題において思考過程を言語化する力に課題が見られます。

石岡市といたしましては、今後、児童生徒の強みである高い自己肯定感や ICT 活用意欲を基盤に、対話・振り返りを重視した授業改善を推進するとともに、家庭と連携した読書・学習習慣の確立を組織的に図ることができるように努めてまいります。